

平成 27 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大入島）

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大入島

協定締結集落名：大入島漁業集落

交付金額：8,432千円

(1) 基本交付金：8,432千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：62世帯、77人（うち漁業世帯数62世帯、77人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入 3,662,608円

集落の平均漁業者所得 1,598,686円（平成26年）

2. 協定締結の経緯

漁業が基幹産業である大入島においては、漁船漁業や養殖業等様々な漁業種類が営まれている。しかしながら、近年、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま推移すれば島の漁業は一層衰退し、集落の担う多面的機能が失われていく懸念がある。

そこで、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組む環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施することで漁業の再生を図るため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

赤潮調査等により漁場の維持管理に努めた。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
漁場の維持・管理			
赤潮調査	5月18日～9月16日	7回	105,000
底質改良材の散布	9月30日～10月16日	底質改良材 (クリアウォーター) 6,000kg	1,257,040
海底耕耘	1月9日、1月10日	参加漁船数 10隻	584,000

種苗放流等により資源の維持、増大を図った。

活動内容		放流数	サイズ (mm)	経費 (円)
種苗放流	クロアワビ メガイアワビ	11,413個	30	1,053,785
	サザエ	12,500個	25	454,078
	カサゴ	5,571尾	71	505,321
	アカウニ	20,000尾	13	329,308
	トコブシ	12,500尾	25	454,078
			計	2,796,570

海底耕耘により産卵場・育成場の整備を図った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
海底耕耘	7月6日～7月9日	参加漁船数 40隻	2,098,132

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

ハモ出荷用活魚タンクを導入し、出荷作業の効率化を図った。

また、活ハモの流通改善とブランド化を図るため、「大入島ハモ」のシールを作成。

スチロール箱に貼り付けて、活かし箱出荷に取り組んだ。

4. 取組の成果

①海底耕耘を実施することにより、硬化しつつあった底質が軟化し、漁場環境の改善を図ることができた。これにより、魚介類等の幼稚仔の生息域の拡大、特にクルマエビの漁獲量増大が期待されている。



小型曳網漁船による海底耕耘 (H27. 7. 6)

②種苗放流においては、アワビ等商品価値が高くかつ定着性の魚種を放流したことにより、数年後の水揚金額の増大が期待されている。また、サザエの種苗を放流することにより水産資源回復に期待をしている。



アワビ種苗放流 (H27. 12. 14)



サザエ種苗放流 (H27. 12. 17)



カサゴ種苗放流 (H27. 6. 22)



トコブシ種苗放流 (H27. 12. 17)



アカウニ種苗放流 (H27. 5. 19)

④養殖漁場の水質・底質の改善を図ることを目的として、底質改良剤の散布をおこなった。これにより、赤潮の抑制等、漁場の環境改善効果があるのではないかと考えられている。また、赤潮被害を最小限に抑えるため、赤潮調査を実施し漁業者へ注意を促した。



クリアウォーター散布 (H27. 9. 30)



赤潮調査 (年7回実施)

⑤活かし箱等を活用したハモの流通改善に取り組むことにより、活ハモの付加価値向上を図ることができた。



ハモ出荷用活魚タンク



ハモ活かし箱



活かし箱による出荷